

■「ワークショップ快速」

商品概要	おすすめポイント	利用シーン
<p>GI終了後に実施されるデブリーフィングの場を使って、商品・サービスのアイデア案まで一気通貫で作成する。</p>	<p>①関与者の拘束期間がコンパクト GI実施後に、その日の内にアイデア案作成までを完結させるため、日を改めてディスカッションを行う必要がありません。</p> <p>②参加者(プロジェクト関与者)の納得感アップ GI実施～WSまでの過程(ファクト共有と発想の拡散、収束)を同じ場で共有するため、参加者の情報量に濃淡もなく、アウトプットへの納得感も高まります。</p> <p>③ひらめきは熱いうちに叩け 生活者の意識、実態を観察して感じたひらめきを、ホットなうちにアイデア案まで昇華します。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・GI終了後のデブリーフィングを単なるファクトの共有で終わらせず、商品・サービスの戦術まで落とし込みたい時 ・商品やサービスの改善ポイントとブラッシュアップポイントを具体的に抽出したいとき。 ・とにかく短期間で、次のアクションに繋げる結果を参加者が共有したいとき。

■ 実査フロー例

- ①ファクトの抽出 (お困りごとや気づきを付箋に書き出し)
⇒グループインタビュー 【120分】
- ②ニーズ探索 (付箋の整理)
⇒ファシリテーター主導で実施し、共有 【60分】
- ③インサイト抽出 (ニーズの解釈) 【60分】
- ④アイデア発想 (アイデアの拡散) 【120分】

のべ360分 (約6時間) ※休憩時間等も含む
※グループインタビューを2G実施の場合は+120分

■ スピーディーに実施できる訳

- GI観察時に付箋書き出しなどのタスクを課す、付箋まとめはファシリテーターがWS前に簡易的に実施するなどの工夫で、隙間時間を有効活用します。
- 各ワークにおけるツールやモジュールは、より短時間で成果に繋がるものを、カスタマイズして選定します。
(例：ブレストテーマやアウトプットに前提条件を付加する「制限ブレスト」など)

